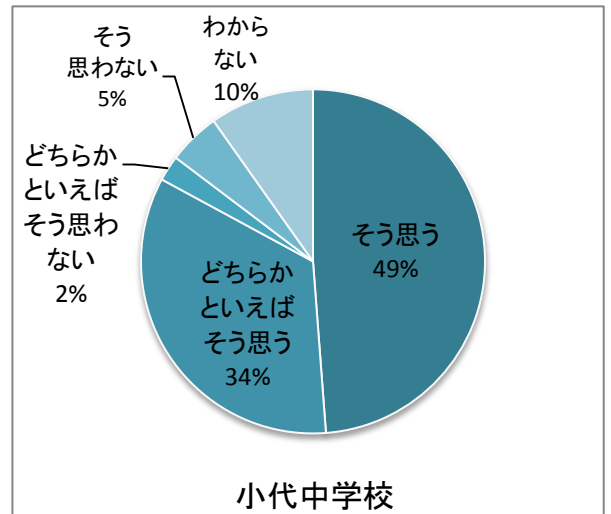
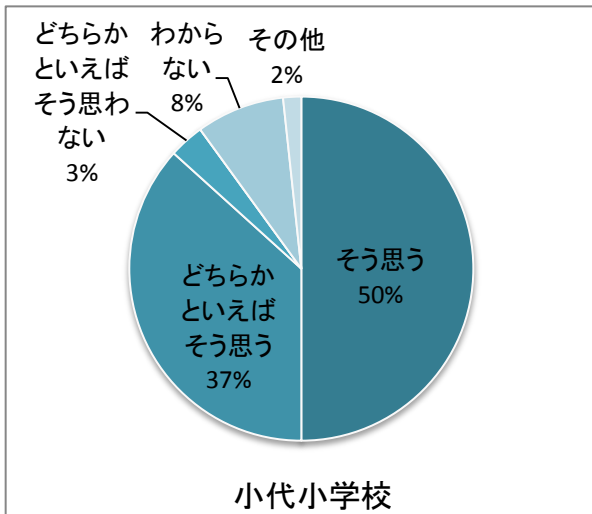


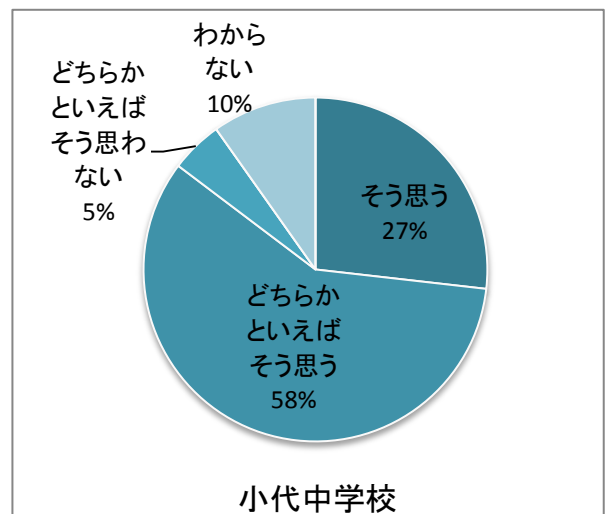
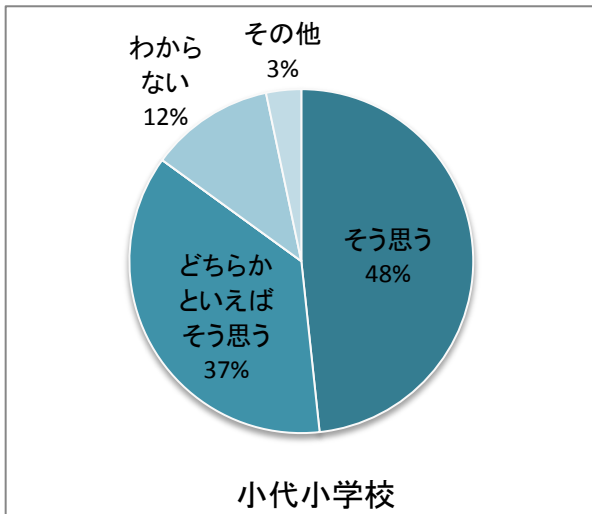
I 教育環境についてのアンケート結果の抜粋(平成24年7月実施分)

1. 子どもの様子について、明るく元気にたくましく育っていると思いますか(保護者)



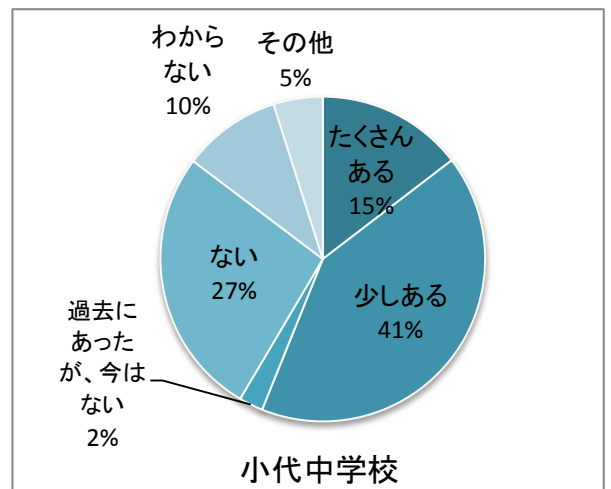
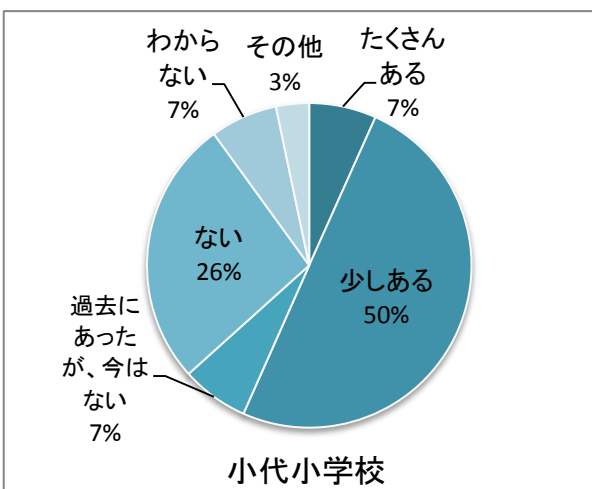
保護者からみた子どもの様子について、小・中学校とも8割以上が「明るく元気にたくましく育っている」と肯定的にとられています。

2. 学校が学習・生活の場としてふさわしい環境を整えていると思いますか(保護者)



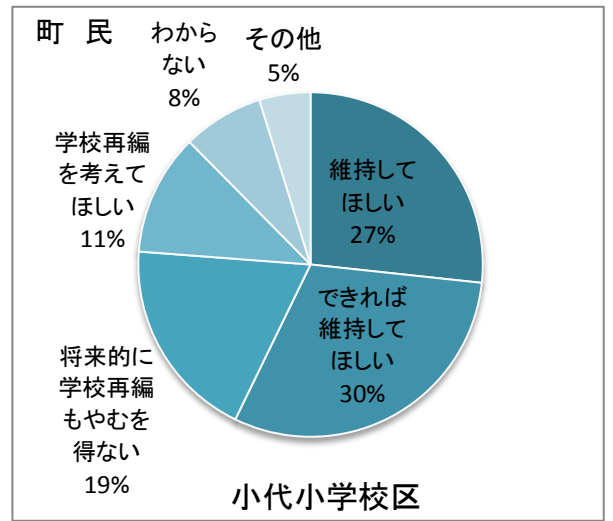
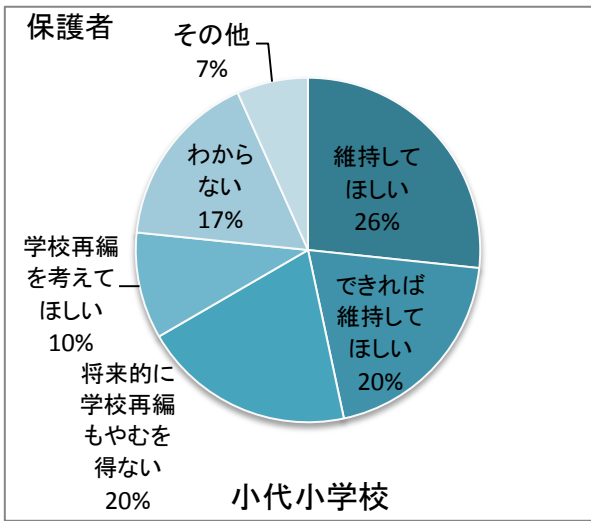
小・中学校の8割以上が、ふさわしい環境が整っていると考えています。

3. 子どもの学校園生活についての悩みや不安について(保護者)



小・中学校保護者の6割近くが「ある」と答えています。その悩みや不安の内容は、小学校では「友だちとの関係」「学習や成績」が多く、中学校ではこのほか「将来の進路」が多くなっています。

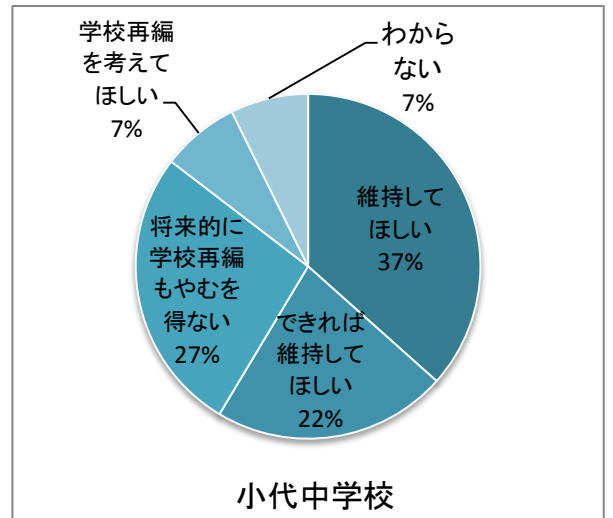
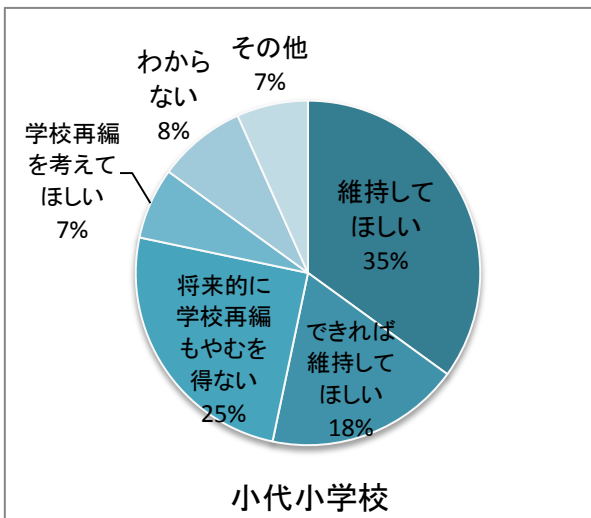
4. 全学年が複式学級になっても小学校を維持していくべきだと思いますか。



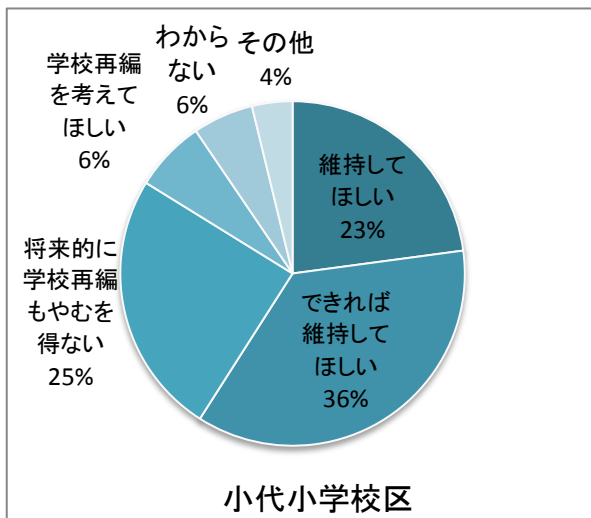
小学校について、現在あるいは将来、全学年で複式学級になっても維持していくべきかたずねたところ、維持意向が保護者で5割近く、町民で6割近くあり、保護者に比べて町民の維持意向が高くなっています。

5. 中学校について、将来どうあるべきだと思いますか。

保護者



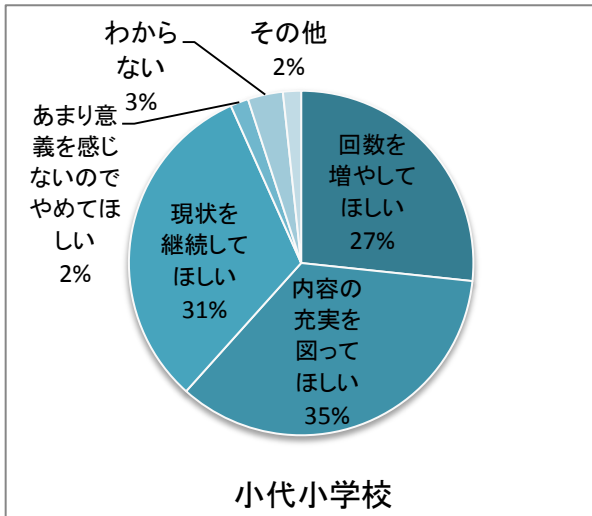
町民



中学校の将来のあり方について、維持意向は小代小学校で5割、小代中学校と町民で6割あります。「将来的に学校再編もやむを得ない」「学校再編を考えてほしい」の回答割合は、保護者・町民ともに同じ傾向にあります。

II 教育環境についてのアンケート結果の抜粋(平成26年1月実施分)

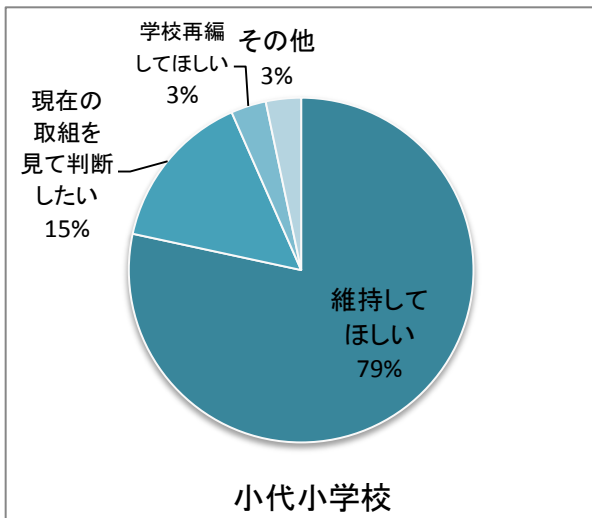
6. チャレンジプランの取組について(保護者)



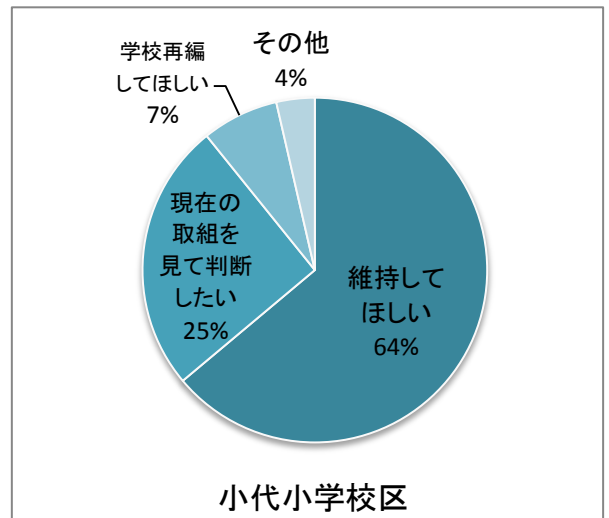
「意義ある取組だと思う(回数を増やしてほしい、内容の充実を図ってほしい、現状を継続してほしい)」が9割あり、「あまり意義を感じないのでやめてほしい」が2%あります。

7. 小学校を今後も維持していくべきだと思いますか

保護者



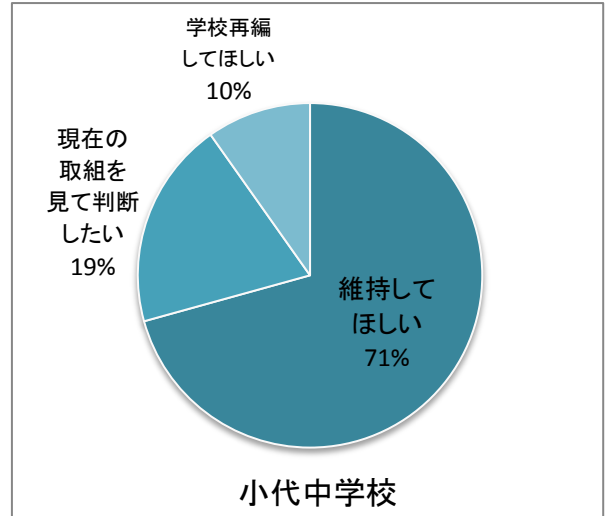
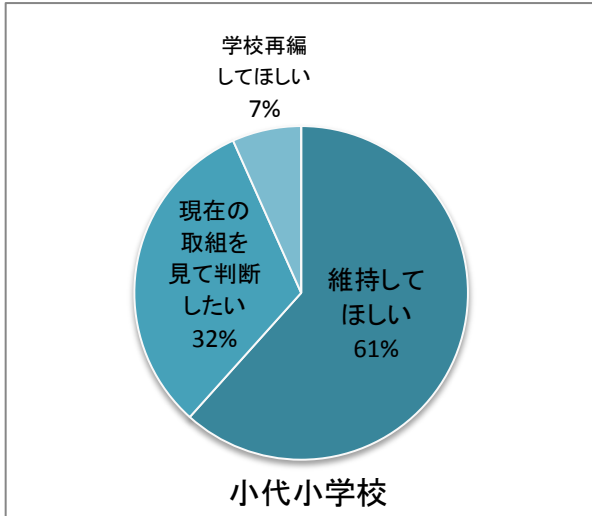
町民



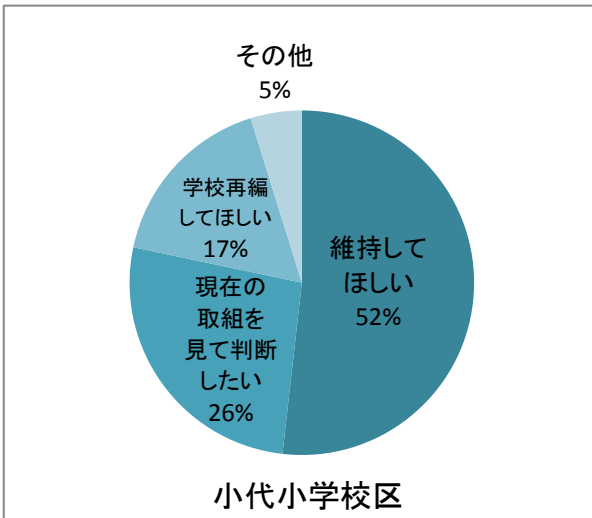
「維持してほしい」「現在の取組を見て判断したい」とする保護者・町民が9割あります。「現在の取組を見て判断したい」の意向は、保護者に比べ町民で高くなっています。

8. 中学校を今後も維持していくべきだと思いますか

保護者

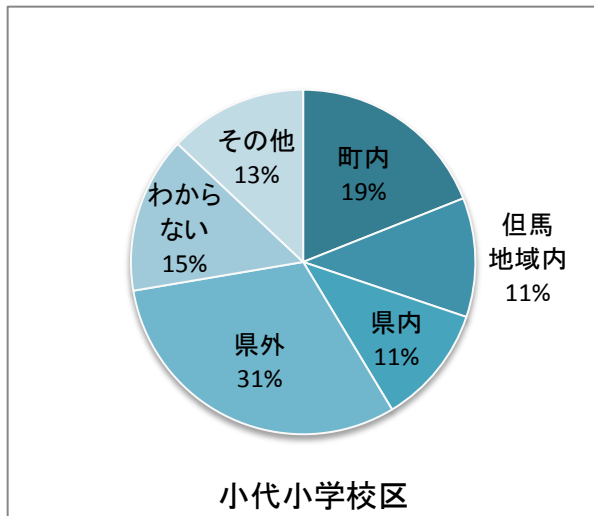


町民



「維持してほしい」「現在の取組を見て判断したい」とする保護者は、小代小・中学校で9割、町民で8割近くあります。

9. お子さんに将来どこに住んでほしいと思いますか(保護者)



保護者が、子どもに将来住んでほしい地域は「県外」がもっとも多く、次に町内となっています。

10. 「いじめ」に関する悩みや不安がありますか

「いじめ」に関する悩みや不安について、「ある」と9件回答がありました。内容を精査したところ、6件は「いじめ」に該当しない内容でした。残り3件については、「いじめ」と判断しにくい内容でしたので、学校に出向き調査を行いました。その結果、2件は「いじめ」の定義にあてはまらない内容でした。もう1件は、継続的に子どもたちの人権意識を高めていく努力が必要な事例でした。

11. 体罰を受けたことがありますか

学校内の体罰について、「ある」の回答はありませんでした。

教育環境のアンケート結果の考察

《明るく元気にたくましく育っている子どもたち》

小代小学校、小代中学校の保護者は、8割以上が「明るく元気にたくましく育っている」と答えています。

このことから、両校の子どもたちが、明るく元気にたくましく育っているとあらためて確認できました。

《学習・生活の場としてふさわしい学校の環境》

子どもの通う学校について、「学習・生活の場としてふさわしい環境を整えていると思う」と小代小学校、小代中学校で8割以上の保護者が答えています。

このことから、両校が学習・生活の場としてふさわしい環境を整えているとあらためて確認できました。

《悩みや不安の要因の多くは「友だち関係」》

子どもの学校生活についての悩みや不安に、保護者の6割近くが「ある」と答えており、悩みや不安の多くは、「友だちとの関係」、次いで「学習や成績」と答えています。

このことや、「社会性や生活力の不足」「人間関係の固定化・序列化」「切磋琢磨する機会の不足」「集団学習の不足」などの保護者があげる不安を解消するため、H25年度から「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の取組を始めました。

《高いチャレンジプランへの評価》

チャレンジプランの取組について、「意義のある取組だと思う（回数を増やしてほしい、内容の充実を図ってほしい、現状を継続してほしい）」と保護者の9割が答えています。

このことから、チャレンジプランの取組が「意義がある」と評価され、継続して実施してほしいと保護者が考えていると捉えることができます。

《平成24・25年度の小学校の維持意向についての比較》

H24年度に全学年で複式学級になっても小学校を維持していくべきかどうかたずねたところ、維持意向が保護者で5割近く、町民で6割近くあります。

H25年度に小学校を今後も維持していくべきかどうかたずねたところ、「維持してほしい」「現在の取組を見て判断したい」とする保護者・町民が9割あります。H24年度に比べて保護者・町民の維持意向が高くなっています。

このことから、保護者、町民ともに小学校の維持を希望しており、今後の小学校の取組に期待していると捉えることができます。

《平成24・25年度の中学校の維持意向についての比較》

平成24年度に中学校について将来どうあるべきかたずねたところ、維持意向は、小代小学校で5割、小代中学校と町民で6割あります。

H25年度に中学校を今後も維持していくべきかどうかたずねたところ、「維持してほしい」「現在の取組を見て判断したい」とする保護者は、小代小・中学校で9割、町民で8割近くあります。平成24年度に比べて保護者・町民の維持意向が高くなっています。

このことから、保護者、町民ともに中学校の維持を希望しており、今後の中学校の取組に期待していると捉えることができます。